

世相を反映して

▽強まり行く虚禮廢止

▽市内に現れた中元色

お盆を前にして平市内の各商店が夏枯れどきの唯一のオアシスたる『中元大賣出し』がジャンジャン始まつて宣傳戦に客を呼んでゐるだいたい

空前の不景氣の世相の上に、年々強まつてくる『虚禮廢止』の叫びのうちにいつまでこの種の賣出しに脈があるか、これはお客だけでなく賣る方にとつても不安を伴ふ一つの興味にち

がひない。きのふ今日の**客足を**商店にきくに何れも目立つて少ない、これは賣出しの不振の證左にはならぬと各店が口を合して言ふのは低落一本調子の物價は更に先安を見越してどうせお盆の贈り物は平町では七夕までにすればよいのだから一日でも後へくと買足が鈍るためであるといふ觀測である

贈答の王座

依然食料品と雜貨

安くて体裁だけの品

各商店の本年シーズンの豫想を綜合すると捌けて行くのは『安價で体裁だけ』といふ要求が更に去年よりも

深刻となり、賣上數量は昨年と大差なくともその金額において前年の半分から三分の一に減じるだらうとの見込が多い、そこで今年の贈物の狙ひどころはやはり食料品と雜貨が王座を占め砂糖所謂ビート物が賣れるので砂糖に主力を注いでゐる値段は一斤三

錢である、次にビール、清涼飲料、醬油、果實、シロップを始め饅頭、海苔奈良漬等の**實用品**の復古の兆を示してゐる、雜貨ではワイシャツよりも三枚一圓のクレープシャツの方が評判よく、ハンカチは一打一圓位タオルは半打綴や化粧石鹸などもお爲め用として歡迎されてゐる、子供本位のおもちや、菓子の贈答も多く**商品券**は金額がハ

キリしすぎるので利用薄いからしてキリツメた上にキリツメて實用的にと走るのが本年の平の中元色であらう

大工事請負

該當者僅か三名

平土木監督所管内の制限

本縣土木課では請負業者間の入札競争に新制限を加ふる事になつたので平土木監督所に於いては今後五千圓以上の橋梁工事入札者は從來の資格を有する外五ヶ年以内に五千圓以上の本縣鐵骨コンクリート橋梁工事を完成した經驗を有し且つ直

接國稅百五十圓以上を納付する者で監督所長の證明を有する等の條件を要する事になつたが是れに該當する者は同所管内廿三名の請負業者中僅か三名に過ぎず今後の大工事は有力な請負業者にのみ委ねられ無理な競争は行はれぬことになつた

石田訓導指導

平第三小學校にては来る二十五日より一週間毎日午前七時より二時間宛石田訓導委員の下に競技及び籠球の練習を行ふと

橋梁工事入札

平土木監督所では来る廿六日午前十一時より上小川地内香後橋及び小名濱町地内小名川橋の橋梁工事入札を執行すると

内務省技術課長が

郡下巨救事業視察

石城郡小名濱商港工事を始め郡内の八年度巨救事業視察の爲め内務省の福本第二技術課長、杉本技師、坂本仙臺土木出張所長、土肥本縣土木課長の一行は本廿三日零時五十五分平驛着列車にて來平、小林平土木監督所長の案内で直に小名濱に向つた

濱三郡の軟式野球

申込十二日迄

濱三郡軟式野球大會は来る九月十七日午前八時より磐中平商第一の三グラウンドに於て舉行されるが参加申込みの締切りは十三日迄、十四日午後七時より大塚運動具店にてキャプテン會議を開き組合せの抽籤其他種々試合上の打合せを行ふと

危険な高麗橋

架橋の運動

平町の城山と八幡小路を連結する高麗橋は最近橋上に大きな穴があいた程腐朽甚しく止むなく車馬通行を禁止して寫るが赤井村大川橋を通行中橋桁の腐朽が轉落

日) 植田(十月一日) 泉、渡邊(二日) 玉川、鹿島(三日) 豊間(四日) 高久

(五日) 飯野(六日) 神谷(七日) 夏井(八日) 草野(九日) 大浦(十日) 大野

中堅農民

意見發表機關

石城郡農會の中堅農民講習會では今回會員の連絡及び意見發表機關として年四回パンフレットを發行すべく計畫中である

平町人事

回出生

△長橋町二七 當時東京市小石川區久堅町九十室越 德太郎氏二女カメ子

回死

△立町二 當時好間村大字上好間字小館二〇三治郎 氏妻太田タツノ(二七)

貸切の御用命

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

印刷物の御用命は總て印刷日毎警常 電話三六〇番

三井タクシー

平町二丁目 電話八六五番

火の氣ない

鶏小屋から怪火

平署放火と睨む

平町月見町二七青木鶴吉方
鶏小屋より昨廿二日午後十
二時頃火を發し自動車脚筒
が自動大事に至らず消止め
たが同處は全然火の氣のな
い所なので平署では放火と
睨み關係者を取調中

鮫川滯納競賣 石城
郡鮫川堰普通水利組合では
七年度分組合費滯納者十名
金額三十餘圓に對し來る卅
一日午前九時より差押物件
の公賣を行ふ

産後の保養中に

別な女房を迎ふ

薄情な亭主を相手取り

慰藉料請求の訴訟

石城郡内郷村大字白水字廣
畑九十七番地大越フミ(三)
は此程増田辯護士を代理人
として磐崎村大字岩ヶ岡鈴
木源一(二)を相手取り平支
部に二千二百十三圓の慰藉
料並に損害賠償の請求認證
を提起したが原告フミは一
昨年一月同村御代專藏の媒
酌に依り被告源一と結婚間
もなく妊娠したので健康が
勝れず床に着いた處兩親は

生活難の窃盜か?

日用品を度々盗む女房

發覺して捕る

平町上河原一五居住下駄行
商辰治郎内縁の妻千葉縣櫻
町生れ荒木ツネ(〇)は去る
十二日鄰家の菊地兵藏方の

正直者の

大音堂主怒る

感情から云ひ掛り

平町白銀町高島洋服店は同
町白銀町大音堂看板店に塗
り替へを依頼したオートバ
イのチェンを取換へられた
と平署に横領の告訴を提起
したが右は行き違いより生
じた單なる感情の衝突であ
るらしく横領の云ひがかり
は自分の名譽を毀損するも
甚だしいと正直一圖な大音
堂主は立腹の餘り反對に平
署へ誣告の告訴を提起した

營利誘拐告訴 平町

三丁目カフエー黒猫串利根
川金三郎方コック野口義照

改修工事の怪俄人

一二名事務所費用で治療

石城郡夏井村宇山崎地内夏
井川改修工事に人夫として
從業中であつた同村宇新屋
敷加藤國光(九)は十九日午
後一時自分の振り降した鉄
で右足に全治二週間の傷を

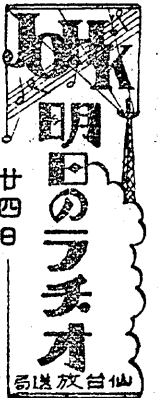
腹を搔ツ斬り……

血に染つて苦悶

隣家の女房と通じ

發覺し申譯なし

石城郡勿來町驛前鍛冶職金
森末歳(〇)は去る廿一日夜
剃刀で腹を搔ツ切り苦悶中
を家人に發見され醫師の應
急手當を受けたが生命危篤
であると原因は隣家の桶職



今日晩の部
後六、〇〇 子供の時間
お話「白虎隊」 華名道
達
後六、二五 「傳説と史蹟
を探ねて」(九)
後七、三〇 講演「衣食住
の資源」 大阪市立工業試
験所長 理學博士 高岡

齊
後八、〇〇 ラヂオドラマ
「樂しき夏の夜」(佐藤
春夫原作 深井史郎作曲
後八、四〇 掛合嘶「心力
萬才」海老一海老藏連中
後九、〇〇 連續物語「ひ
とりしづか」(終) 淺野
壽恵子作) 夏川靜江

溜池で……

幼女溺る

石城郡湯本町大字水ノ谷字
龜尾四二義雄二女志尾崎英
子(九)は昨廿二日午後二時
半頃妹ヤス(八)外附近の子
供十餘名と附近の溜池で水
泳中深處に陥つて溺死した

平職案紹介所報告

- 回人を求める方
△外交員 五十迄 高卒
給料面談(双葉郡某)
- 回人を求める方
△小職員 十五才 尋卒
給料面談(平町某)
- 回職を求めめる方
△小職員 十九才 高卒
給料面談(湯本町某)
- △事務員 二十三才 乙商
卒の給料面談(湯本町某)
- △料理人 三十一才 尋卒

後九、三〇 時報ニユ
氣象通報 番組報告
明日の部
前六、三〇 趣味の歴史講
座「軍隊と官史」第四講
鈴木光夫
前七、三〇 夏期ドイツ語
講座(十四)三浦吉兵衛
前九、一〇 料理献立「新
里芋の煮方」中村光三
前一〇、三〇 婦人講座
石川静子
後一〇、〇五 獨唱と管絃樂
後二、〇〇 夏期講習「人
形玩具の描き方」西澤笛
後六、〇〇 子供の時間
ラヂオ紙芝居「お伽島」谷
岡初太郎
後六、二五 傳説と史蹟を
探ね(一〇)
後七、三〇 地蔵盆實況
京都市矢田寺より中繼
後八、二〇 哥澤
後八、三五 長唄寒山拾得
唄太田卷たつ子 石垣き
み子 三味線杵屋和三鶴
高橋さだ子
後八、五〇 浪花節「數井
亥以上」大阪の巻 日吉
川秋水

磐城共濟病院

電話(六四)一四番

- 内科 院長 石山謙郎
- 小兒科 院長 五十嵐雄二
- 婦人科 院長 有馬勇二郎
- 皮膚性病科 院長 石山謙郎
- 耳鼻咽喉科 院長 石山謙郎
- X光線科 院長 石山謙郎
- 物理療法科 院長 石山謙郎
- 藥劑局 局長 石山謙郎
- 衛生試驗所 局長 石山謙郎

醫

- 目科療診
○内臓外科
○整形外科
○脳外科
○皮膚科
○婦人外科
○性病科
○一般外科

諸橋外科醫院

醫學博士 諸橋鐵彌

平町新川町廿七(電話四六四)

開

入院室 完備
手術室 完備

業



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第二十三回 血に飢ゆる村正

珠に疵の上げ槌

國廣と村正とは前々兄弟の約束を結びました間柄で殊に村正が三十歳になつたならば、國廣の妹春江を迎へて夫婦になるといふ約束を致してございます、ソコで一旦國廣の許へ参りました、國廣大きに喜び、長谷部國重もその中に加はり目出度婚姻の式を挙げました然る處間なく春江は村正の胤を宿して、其の翌年月満ちて安々と男の子を産落しましたから、自分は喜左工門といふ名前を改め、其の子に太郎正俊といふ名を付けました、月日の経つのは早いもので、此の正俊が十才に相成りました時に、即ち明德三年九月の事でございます、村正は女房に子供を連れて諸國を廻つて見たいといふ考へから、國廣に別れを告げて京都を出立して夫より關東へ下り、彼方此方と歩く中に上總の妙見山下へ参つて足を止め、妻の春江は針仕事、琴の指南をいたし、村正は一身に刀を鍛つて居ります。

御話し變つて此方は師の五郎入道寶龍齋正宗六十一歳の聲を聞きましたが、



考へて、正兼正義といふ二人の弟子を連れ、相洲鎌倉を出立致し順を追つて丁度上總の妙見山へかゝつて参りました。

妙見山の手前の宿迄参り

ますと、上總屋佐兵工といふ大きな行燈が掛り居ります。○「お早いお着き様でございます、お泊り様でございます、ますなら手前共へお泊りを願ひます上總屋でございませう。」
正「ア、私達は三人だから宜しく頼む。」
○「畏まりましたございませう。」

願ひます。」
と禮を述べます。
正「イヤ亭主、さう丁寧な挨拶では恐ろれ入る、サアどうぞ此方へ。」
佐「御免を蒙ります。」
正「大層結構なお庭でございます。」
佐「どう仕りました、不精でございますからお目に止まる物もございませぬ……エー就きまして、伺ひますか？」

然るに正宗は二人、弟子を寝かした後で間もなく床に就いたが、餘り茶を過ぎしたので、眠られませんから、袋の中から小さい帳面を出しまして、筆を執つて諸所の名前を蹟を見物致し、いろ／＼の面白い事などの聴いた、を記して居りますと、トントンカンといふ槌の音、流石名人の正宗の事でございますから、筆を止めて耳を引つ立て、膝に手をつかえて聴いて居りますと、確に相州流の槌の打方
正「世にも上手な人もあるものかな、何といふ人か我が流儀を此の位學んで居るとは頼むしい人だ。」
と思つて居ります内にカーンと、一番終りに打下ろした槌音之を聞くと正宗が
正「ア、失策な、玉に遺憾い事をした。」
と腕組をして肩に鉢を寄せて考へて居りますと
佐「お油を注ぎます宿の亭主でございます、オヤまだお客様お寝み遊ばしませしか。」
正「ア、之は御亭主、宜い所い来て下すつた、實は御亭主に少し話したい事がある、一寸どうか此方へお入り下さい。」

と宿引の案内で上へ登り座敷へ通り、そこで帳場へ幾らかのお茶代を出し、女中達へも夫々祝儀をやる、暫らく経つて亭主の佐兵衛が正宗の座敷へやつて参り

まして
佐「エーお疲れ様で唯今は又多分のお茶代を有難うございませう、ど、御景員を

外科 X 光線科
外 性病科
科 科
意 隨 院 入

平町田町
安齊外科醫院
電話四七五番

親切確實は
正木織物店ノ生命也
絹織物ノ正木織物店へ
開業三十五週年を祝するため
二割引にて大々的勉強御註文
に應ず
御註文ノ時(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス
平町字新町貳十貳番(公園下)

白生地 賃織販賣 正木織物店

玉 炭 平 驛 前
石 炭
コークス 阿部石炭商店
電話 三七番

小兒科。内科

特ニ乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ。

平町 ねすみ坂
渡邊醫院
電話一六一番

吉田眼科病院
平町字新町、電話六八番

御愛乗下さい
シボレーに!
そは先驅者なり